

2026 年 9 月

## 【1 分解説】API とは？

政策調査部 シニア研究員 重原 正明

API とは、Application Programming Interface の略で、ソフトウェア同士が情報をやり取りする際の手続きや内容を定めた規格のことです。決められた API を窓口とすることで、異なるソフトウェアの間でも、情報をやりとりすることができるようになります。

特に API が公開され（オープン API）、企業の枠を超えて使えるようになると、経費データの取得や会計処理の自動化、ロボアドバイザーなどに活用でき、金融総合サービスの利便性が高まります。例えばオンラインでの金融商品の取引の途中で、取引銀行のサイトに移動し、銀行振込をして元のサイトに戻る、ということがあります。これは取引をする金融機関から銀行の API を通して取引銀行に振込金額等の情報が伝えられることで可能になっています。

銀行においては 2017 年 6 月公布の改正銀行法で、銀行システムの API をフィンテック企業へも開放する方針が示され、2018 年 6 月ごろからオープン API の活用が始まっています。ほかにクレジットカード業界でも API 連携の動きが進んでいます。

政府の統計データ等に関しても、API が公開されているものがあります。金融サービス分野をはじめ多くの分野で API が活用されていくことを期待します。